

佳作

「花嫁行列」

美馬市立美馬小学校五年 逢坂 快

僕は母の実家で、おばあちゃんが結婚した時の写真を見つけました。そこには、阿波おどりをする親戚の人たちと花嫁姿のおばあちゃんがうつっていました。何をしている写真なのかとたずねると、それは、おばあちゃんがお嫁さんにきたときの写真で、昔の嫁入りの様子を教えてくださいました。

旧美馬郡脇町出身のおばあちゃんと旧美馬郡穴吹町出身のおじいちゃんが今から約40年前に結婚したときは、同じ年代の近所の人もみんな、結婚したときは、ご近所へのあいさつとおひろめをかねた「初歩き」という習慣があったそうです。

この「初歩き」という風習、おばあちゃんの体験によると次の様な流れだったそうです。

まず、脇町に住んでいたおばあちゃんは、嫁ぐ日の朝、おばあちゃんの家や近所の人が見守る中、仲入という人が先どうして、生まれ育った家を出発します。

次に、嫁ぎ先である、穴吹町のおじいちゃんの家には直接いかず、近所の広場において、嫁ぎ先の近所の人や親戚の人に、出迎えられます。

そして、近所の人々の奏でる三味線や太この音で、留め袖や紋付き袴、礼服をきた親戚の人達が、白無垢の花嫁であるおばあちゃんの後ろを阿波踊りを踊りながら商店街を練り歩いたそうです。

その時、新郎であるおじいちゃんの家では、新郎と家族が、花嫁をまつていました。

花嫁は、勝手口から家に入り、それから、おじいちゃんのお母さん、つまり、

新郎の母に手を引かれて、今度は、同じ班の近所の家に、一軒一軒おひろめしてまわったそうです。

その時に「花嫁菓子」という、あまいふ菓子のようなお菓子を渡したそうです。おばあちゃんは、「かつらは重くて、皆が私を見て、恥ずかしかった」と、言っていました。後で、調べると、この風習は、阿波おどりと三味線の音で花嫁を出迎える「引きこみ」というものでした。

僕は、美馬町の家で、家のじいちゃんにその話をすると、五十六年前にじいちゃんが結婚した時は、旧三好郡三野町出身のおばあちゃんが、夜中に三野町から歩いて来て、じいちゃん一家は静かに迎えたそうです。

穴吹のおじいちゃん、おばあちゃんの結婚とはまるで逆だと思いました。僕の両親が結婚したときは、結婚式の最後のプチギフトで花嫁菓子を配ったり、結婚式後に、近所にあいさつにいったけど、花嫁衣裳ではなかったといっていました。同じ結婚でも、地域や年代によって、全然ちがうことにびっくりしました。

僕が結婚するときは、どんなことをするのだろうとちよつと楽しみにになりました。